今日の住職のことば

今日がわが人生の最後の日だと思って生きていく。
そう思って毎日を生き抜いていれば何でもできる。

今日が一生明日は来ない

今日が最初で最後

今がすべて

コロナのこころ

先ずは人から地域から社会から離れてみる
無意味だったことの愚かさを反省する(社会的距離)
すべてはここからはじまる
釈迦は繰り返し言う
「犀(さい)の角のようにただ独り歩め。」と

令和２年４月８日　釈尊降誕の日
緊急事態宣言発出の日
見性院住職

犀の角とは

あらゆる生きものに対して暴力を加えることなく、あらゆる生きもののいずれをも悩ますことなく、また子を欲するなかれ。況（いわん）や朋友（ほうゆう）をや。犀（さい）の角のようにただ独り歩め。

交わりをしたならば愛情が生じる。愛情にしたがってこの苦しみが起こる。愛情から禍い(わざわい)の生じることを観察して、犀の角のようにただ独り歩め。

朋友・親友に憐れみをかけ、心がほだされると、おのが利を失う。親しみにはこの恐れのあることを観察して、犀の角のようにただ独り歩め。

子や妻に対する愛著は、たしかに枝の広く茂った竹が互いに相絡むようなものである。筍（たけのこ）が他のものにまつわりつくことのないように、犀の角のようにただ独り歩め。

林の中で、縛（しば）られていない鹿が食物を求めて欲するところに赴くように、聡明（そうめい）な人は独立自由をめざして、犀の角のようにただ独り歩め。

仲間の中におけば、遊戯と歓楽とがある。また子らに対する情愛は甚だ大である。愛しき者と別れることを厭いながらも、犀の角のようにただ独り歩め。

もしも汝が、＜賢明で協同し行儀正しい明敏な同伴者＞を得たならば、あらゆる危難にうち勝ち、こころ喜び、気をおちつかせて、かれとともに歩め。

われわれは実に朋友を得る幸を讃（ほ）め称える。自分より勝（すぐ）れあるいは等しい朋友には、親しみ近づくべきである。このような朋友を得ること

ができなければ、罪過（つみとが）のない生活を楽しんで、犀の角のようにただ独り歩め。

寒さと暑さと、飢えと渇（かつ）えと、風と太陽の熱と、虻（あぶ）と蛇と、——これらすべてのものにうち勝って、犀の角のようにただ独り歩め。

肩がしっかりと発育し蓮華のようにみごとな巨大な象は、その群を離れて、欲するがままに森の中を遊歩する。そのように、犀の角のようにただ独り歩め。

貪（むさぼ）ることなく、詐（いつわ）ることなく、渇望することなく、(見せかけで)覆（おお）うことなく、濁（にご）りと迷妄とを除き去り、全世界において妄執のないものとなって、犀の角のようにただ独り歩め。

義ならざるものを見て邪曲(じゃきょく)にとらわれている悪い朋友を避けよ。貪りに耽（ふけ）って怠っている人に、みずから親しむな。犀の角のようにただ独り歩め。

学識ゆたかで真理をわきまえ、高邁・明敏な友と交われ。いろいろと為になることがらを知り、疑惑を去って、犀の角のようにただ独り歩め。

世の中の遊戯や娯楽に、満足を感ずることなく、心ひかれることなく、身の装飾を離れて、真実を語り、犀の角のようにただ独り歩め。

妻子も、父母も、財産も穀物も、親類やそのほかあらゆる欲望までも、すべて捨てて、犀の角のようにただ独り歩め。

俯（ふ）して視、とめどなくうつろうことなく、諸々の感官を防いで守り、こころを護り(慎しみ)、(煩悩の)流れ出ることなく、(煩悩の火に)焼かれることもなく、犀の角のようにただ独り歩め。

諸々の味を貪ることなく、えり好みすることなく、他人を養うことなく、戸ごとに食を乞い、家々に心をつなぐことなく、犀の角のようにただ独り歩め。

以前に経験した楽しみと苦しみを擲（なげう）ち、また快さと憂いとを擲って、清らかな平静と安らいとを得て、犀の角のようにただ独り歩め。

最高の目的を達成するために努力策励（さくれい）し、こころが怯（ひる）むことなく、行いに怠ることなく、堅固な活動をなし、体力と智力とを具え、犀の角のようにただ独り歩め。

独座と禅定を捨てることなく、諸々のことがらについて常に理法に従って行い、諸々の生存には患いのあることを確かに知って、犀の角のようにただ独り歩め。

妄執の消滅を求めて、怠らず、明敏であって、学ぶこと深く、こころをとどめ、理法を明らかに知り、自制し、努力して、犀の角のようにただ独り歩め。

慈しみと平静とあわれみと解脱と喜びとを時に応じて修め、世間すべてに背くことなく、犀の角のようにただ独り歩め。

貪欲と嫌悪と迷妄とを捨て、結び目を破り、命の失うのを恐れることなく、犀の角のようにただ独り歩め。

今の人々は自分の利益のために、交わりを結び、また他人に奉仕する。今日、利益をめざさない友は、得がたい。自分の利益のみを知る人間は、きたならしい。犀の角のようにただ独り歩め。

犀の角(さいのつの)　http://www.intweb.co.jp/buda/buda_1_3sainotsuno.htm　より抜粋